

教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針等

1. 特別の教育課程の編成の方針

本校は令和元年度から3年間、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定校として、産学官連携協力体制の下、地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究を進めてきた。事業終了後もその中で得た知見を活かし自走させるために学校設定教科「地域創造探究」を設定し、「地域に愛され、地域と生きる普通科・理数科併置校として、進学希望を実現する教育活動と、グローバルな探究を通して、未来の社会の発展に貢献するリーダーとなる、能力と視野をもった人の育成を目指す」という教育目標の達成に資する。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 学校設定教科「地域創造探究」の設置理由

本校が立地する牧之原市では、人口減少が続き、2040年には、2015年比25%減、2060年には現在からおよそ44%減少(27,500人)することが予測されている。また、同時に高齢化が進んでおり、このままでは地域の経済・社会の縮小均衡は避けることができない状況にある。逆に、牧之原市内の外国人の人口は、2016年1月末は、593人であったのに対し、2019年1月末には、1,068人とほぼ2倍となっている。外国人労働者の受入が積極的になれば、市内の外国人の人口は今後も増加傾向となる。地域内での外国人との文化交流や異文化理解の方策を考えていく必要がある。また、この牧之原市周辺地域には茶業に加え、自動車産業をはじめとして、多種多様な製造業が発展している。加えて、県内唯一の国際空港である富士山静岡空港を有し、潜在的な成長力は十分に有している。さらに、オリザニン(ビタミン)を発見した地域の偉人である鈴木梅太郎博士(牧之原市出身)は、本校の前身である東遠義塾に学び、地域のみならず世界の医療科学の発展に貢献しており、世界を俯瞰して捉えることのできるグローバル人材の育成についても本校の役割は大きい。

世界から日本を俯瞰し、地域の発展につながるキャリア教育は本校の責務であり、地域全体の願いでもある。行政機関、地元企業・団体、地元小中学校、静岡大学教育学部、県内外・海外の高等学校等と連携し、地域と世界を結ぶグローバルリーダーを地域とともに育成できるよう、特別の教育課程を編成して教育を実施する。

(2) 学校設定教科「地域創造探究」の概要(令和4年度～)

- ・地域社会が抱える諸問題について理解する。
- ・地域との協働による課題解決型学習を実践し、他者と協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身につける。
- ・地域や社会の将来を担う一員として、その能力の向上を図る態度を養う。

これら3点に基づいた探究的な学習を、地域との協働によって、各年次において体系的に実践する。

- ・1～3学年「地域創造探究Ⅰ～Ⅲ」(各1単位、計3単位)必修科目
※「総合的な探究の時間」(3単位)の代替
- ・2学年「発展地域創造」(1単位)選択科目